



**2021年3月期 第2四半期  
決算説明資料**

2020年11月5日

株式会社雪国まいたけ  
東証第一部:1375



1

会社概要

2

過年度業績ハイライト

3

2021年3月期 第2四半期 決算概要

4

2021年3月期 業績予想

5

中期経営計画（2020年3月期から2023年3月期）

6

参考資料



---

1

# 会社概要

---



# 雪国まいたけグループの概要

## 株式会社雪国まいたけ



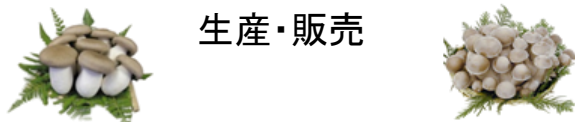
代表者	足利 厳
設立年月	1983年7月
本社所在地	新潟県南魚沼市
証券コード	1375
上場市場	東京証券取引所市場第一部
発行済株式数	39,850,000株
従業員数 <sup>*1)</sup>	社員: 1,116名、臨時雇用者数: 1,302名 (2020年9月末時点)
事業内容	まいたけ、エリンギ、ぶなしめじの生産販売 及びきのこの加工食品の製造販売



## 瑞穂農林株式会社



京都府京丹波町での  
本しめじ、はたけしめじの  
生産・販売



## 株式会社きのこセンター金武



沖縄県金武町での  
ぶなしめじ生産・販売



## 株式会社三蔵農林



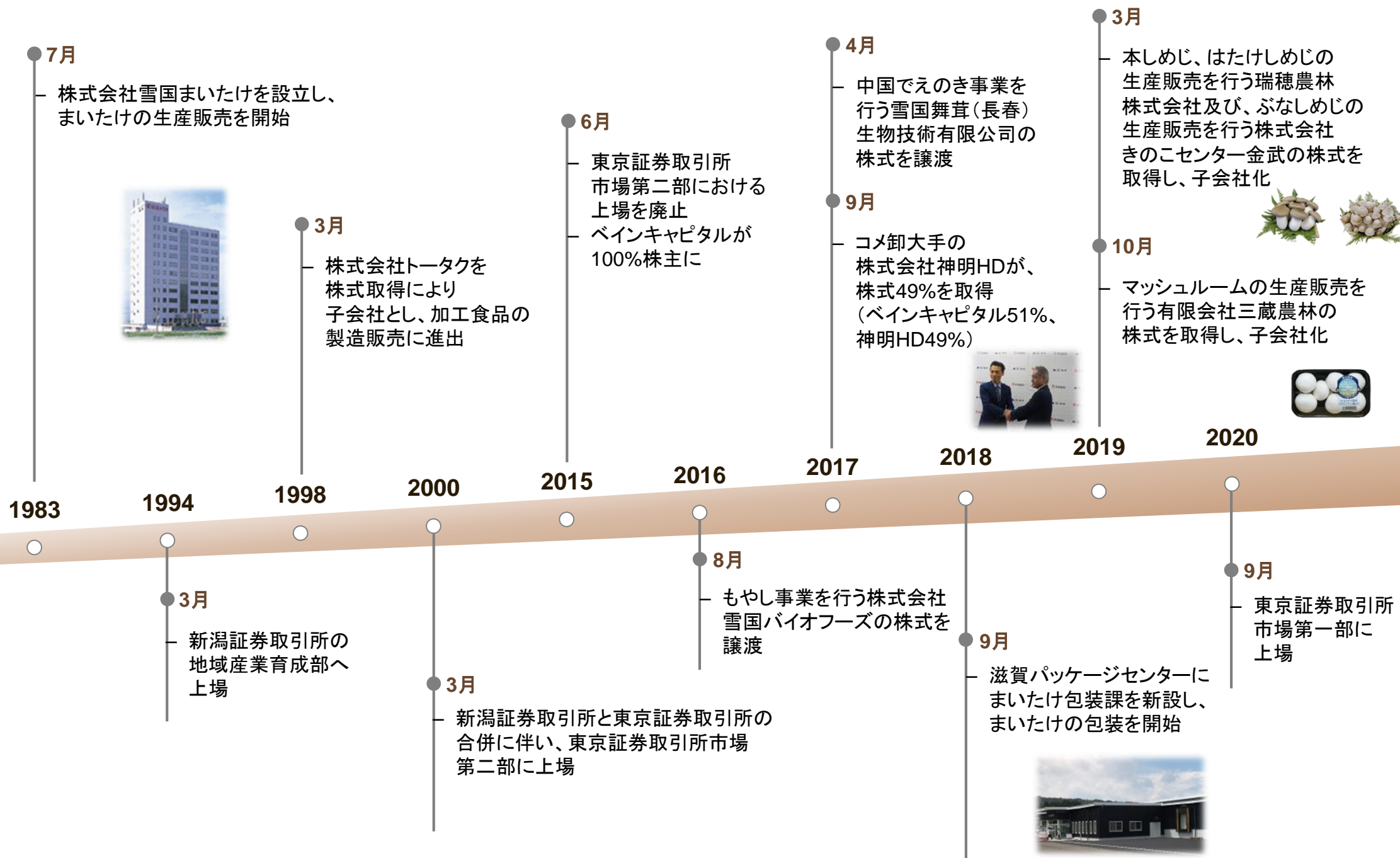
岡山県牛窓町でのマッシュルーム  
生産・販売



\*1): 従業員数は就業人員であり、社員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者含む)と、臨時雇用者数((パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む)は最近1年間の平均人員数)で構成されています



# 主な沿革

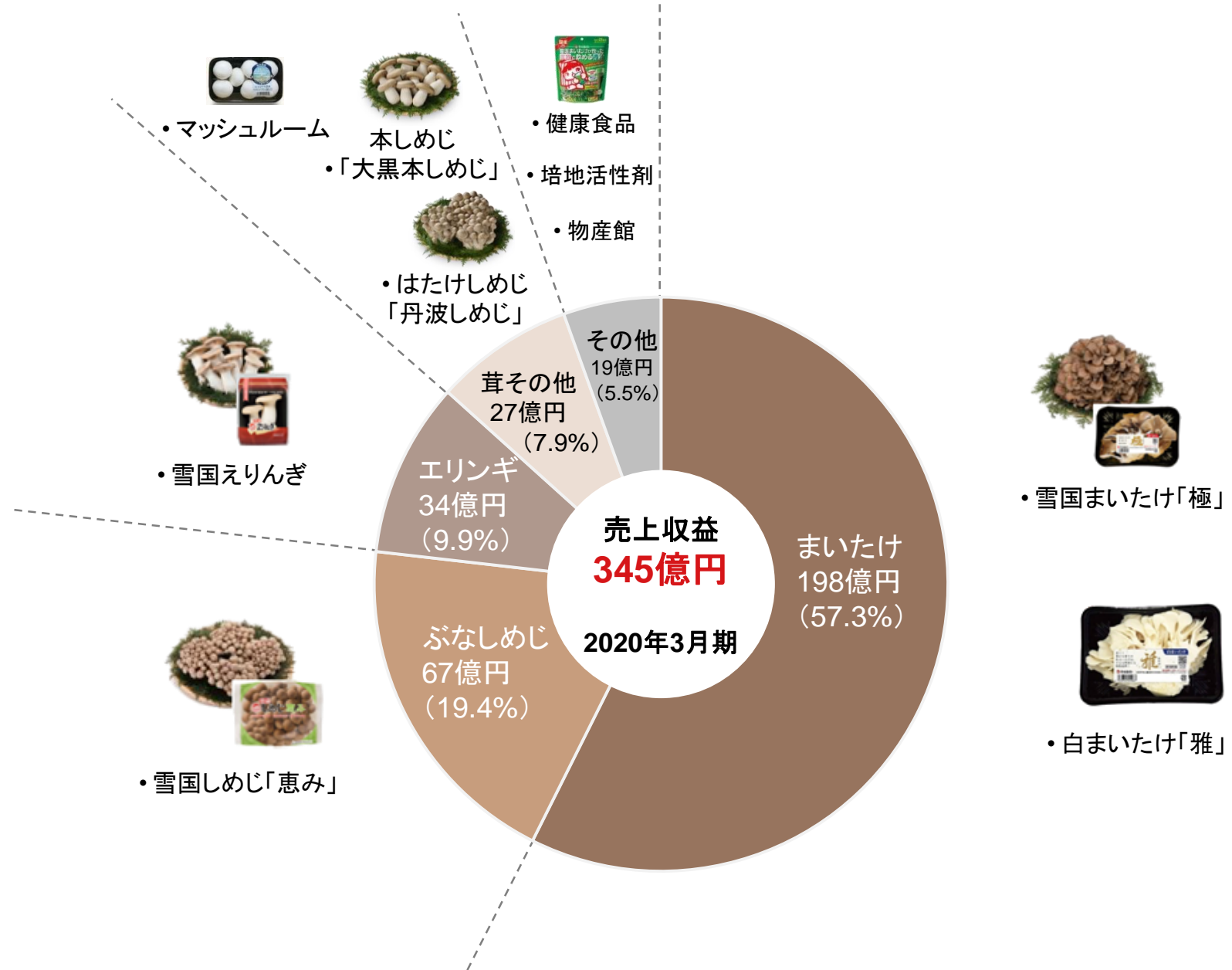


注1): 上記に記載の「ベインキャピタル」とは、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行うファンドの総称  
 注2): 三蔵農林は、2020年3月2日付にて有限会社三蔵農林から株式会社三蔵農林へ組織変更



# 主な取扱商品と売上収益の構成比

- まいたけの量産を世界で初めて成功し、きのこ生産を工業化した、「プレミアムきのこ」のトップシェアメーカー
- まいたけをはじめとしたきのこ類に加え、きのこポータルフォリオを活かした健康食品、加工食品等を展開







・ ましたけの人工栽培と量産のパイオニアであり、きのこの工業生産を手掛けるリーディングカンパニー

雪国ましたけ  
「極」・「雅」



雪国えりんぎ



雪国しめじ  
「恵み」



ミツクラ農林<sup>\*1)</sup>  
マッシュルーム



本しめじ<sup>\*1)</sup>  
「大黒本しめじ」



はたけしめじ<sup>\*1)</sup>  
「丹波しめじ」



加工食品<sup>\*2)</sup>



健康食品<sup>\*3)</sup>



\*1): 茸その他に分類

\*2): 各きのこの加工食品は、原料となるきのこのセグメントに分類

\*3): 健康食品等は、その他事業に分類

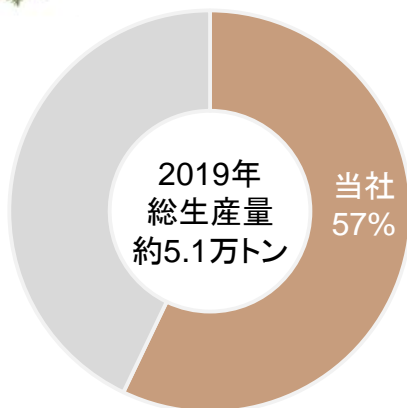


# 雪国まいたけグループ きのこ生産量シェア

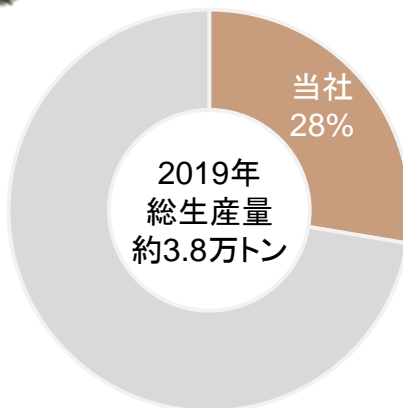
- まいたけをはじめ、展開する各きのこのマーケットにおいて高いシェアを獲得



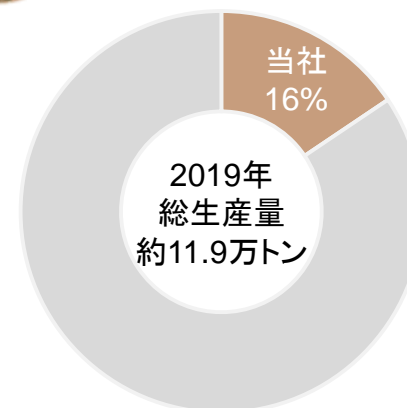
まいたけ



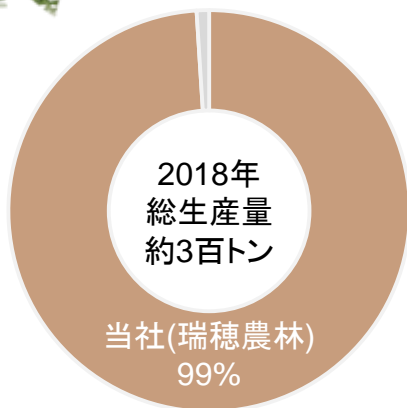
エリンギ



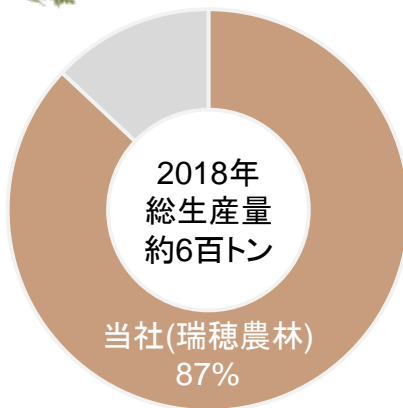
ぶなしめじ



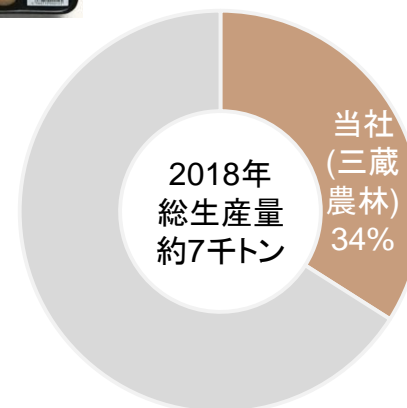
本しめじ



はたけしめじ



マッシュルーム



注) 各種きのこの市場シェアはそれぞれ国内生産量ベースで算出(弊社生産量÷国内全体での生産量)  
出所: 林野庁特用林産物生産統計調査、農林水産省地域特産野菜生産状況調査





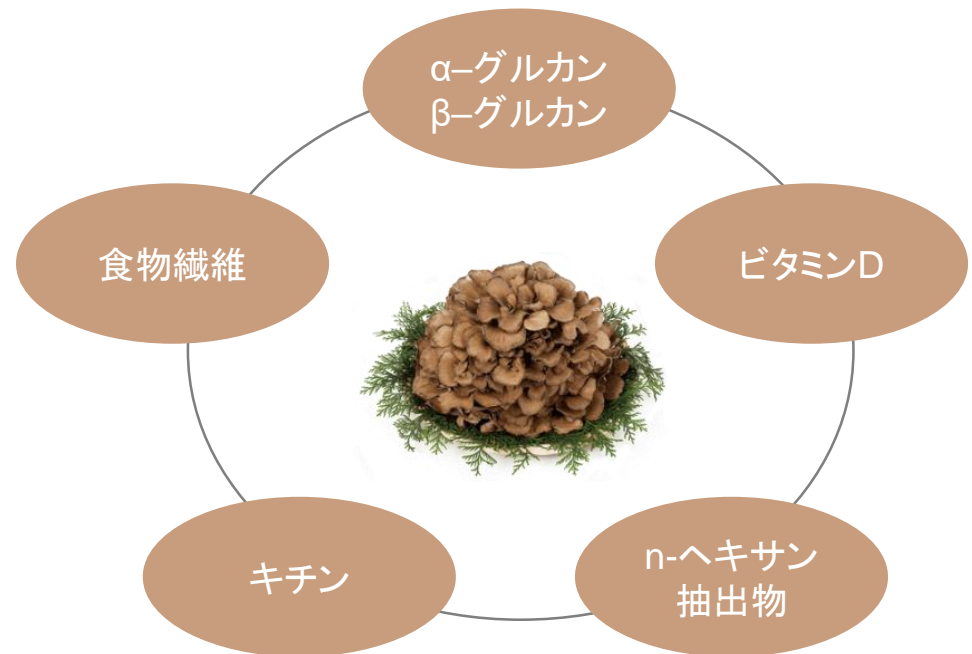
## 当社独自まいたけ品種「極」

- 独自の品種「極」を導入することで、食感や風味に優れた大きなまいたけの安定・大規模生産を実現
- まいたけには豊富な栄養成分が含まれ、高まる消費者の健康ニーズを捕捉

### 当社独自の品種「極」



### まいたけの持つ豊富な栄養成分





## バリューチェーン

- まいたけ事業をコアとした独自のバリューチェーンにより、高い参入障壁とキャッシュフローを創出するビジネスモデルを確立





- 栽培が困難なまいたけを世界で初めて工業化
- 生産プロセスの改善を重ねながら、安定的な生産・供給体制を実現

## 安定した生産能力・収穫・品質

培地合成

植菌

培養・育成

収穫/包装



- 独自レシピで培地を配合し、農薬や化学肥料は一切不使用
- 高温・高圧で培地を殺菌

- 独自に開発した自社菌を培地に植え付け
- 植菌作業の自動化への取り組み
- クリーンルーム管理による雑菌対策

- 広大な培養室と発生室でデータによる科学的な環境管理
- 光環境、温度・湿度制御を適切に管理し、大量生産を実現

- エリンギ・ぶなしめじでは多くの生産工程で自動化を実現





## 当社まいたけの特徴

- まいたけを天然同様のサイズに成長させ、食感を最も引き出せる袋栽培を採用し、大規模栽培によるまいたけの工業生産を実現

### 商品の特徴

- 1株が大きく、需給に合った多様な容量の商品を展開
- 旨みと風味のバランスが良く、高品質なまいたけを実現
- 歯ごたえ、弾力性が強い「**茎**」が大きく、食べ応えがある



### 栽培方法

- **袋栽培**を採用
- 1株あたり**約900g**





---

2

## 過年度業績ハイライト

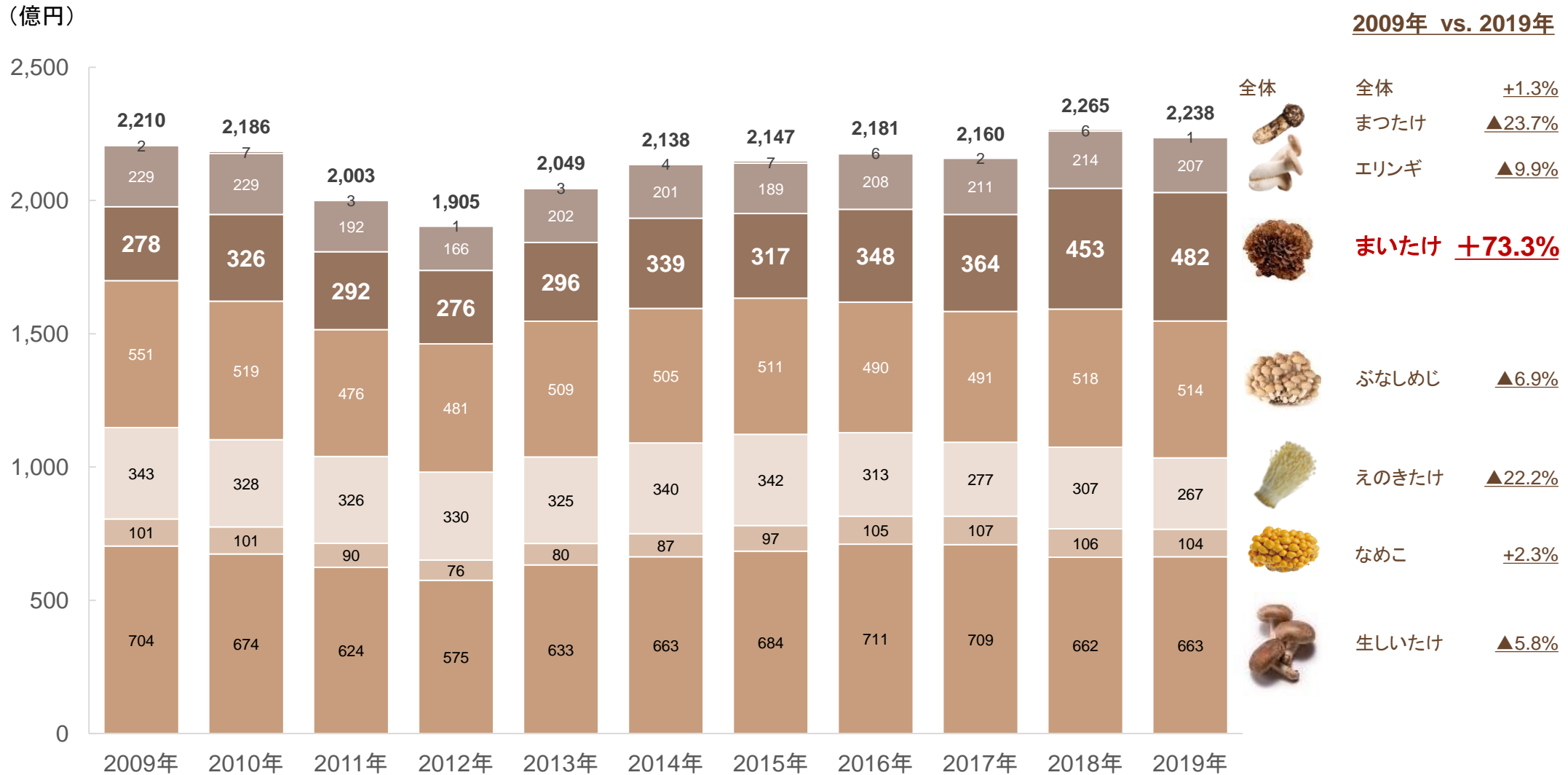
---





# きのこ市場の動向

- きのこ類全体の市場規模は東日本大震災に付随する風評被害等の影響を受け一時的に縮小したものの、2013年以降は拡大基調。中でもまいたけは高成長を実現



注1)：きのこ市場(全体)は生しいたけ、なめこ、えのきたけ、ぶなしめじ、まいたけ、エリンギ、まつたけを合計した市場規模

注2)：各種きのこの市場規模は、「東京卸売市場の年次卸売平均単価(1月～12月)×国内生産量」で算出

注3)：「ぶなしめじ」の市場規模計算時の単価には「しめじ」の平均単価を使用

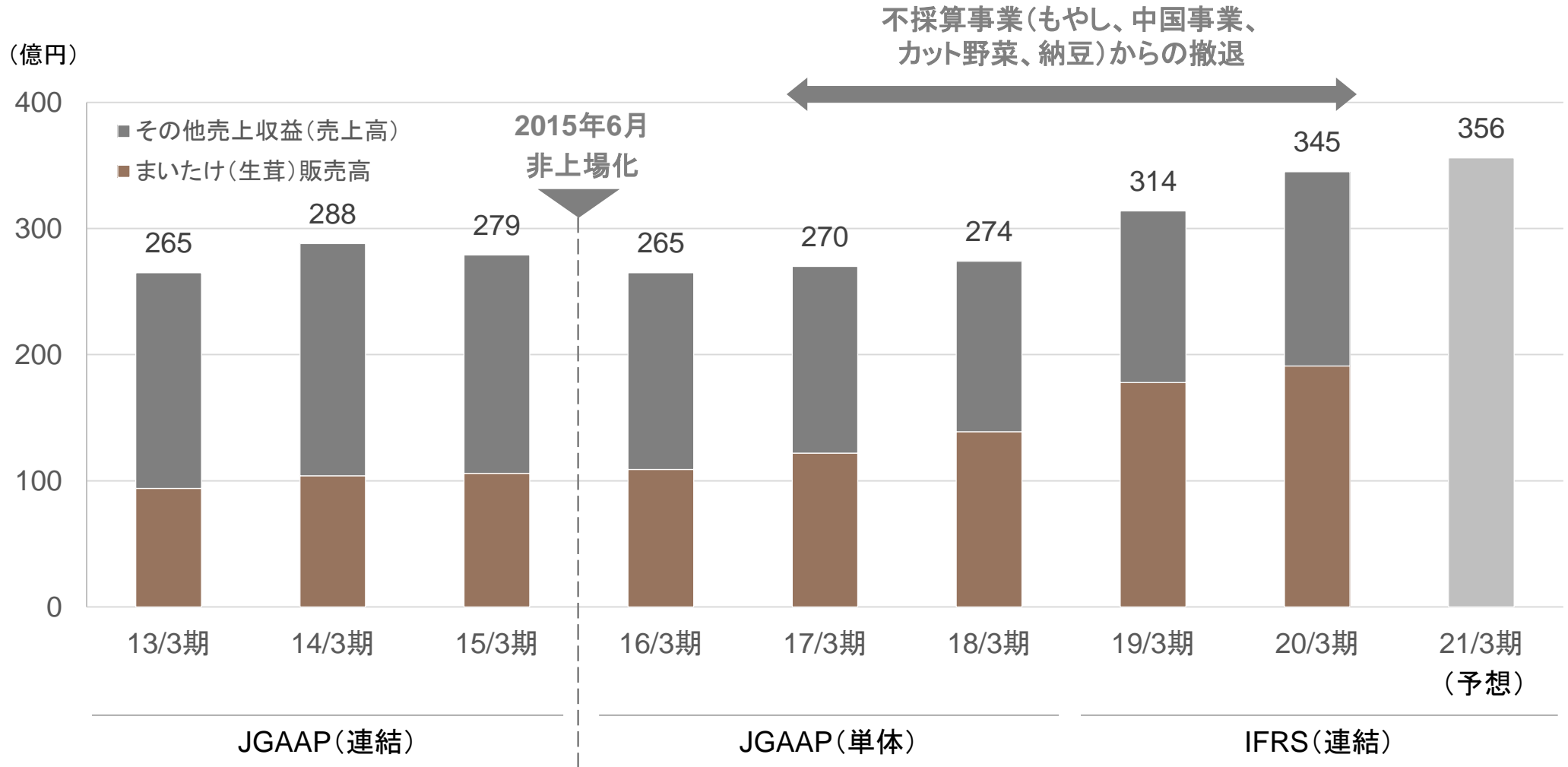
出所：林野庁 特用林産基礎資料、農林水産省 地域特産野菜生産状況調査、東京都中央卸売市場 市場統計情報





# 売上収益(売上高)推移

・ 2015年6月の非上場化以降、不採算事業からは撤退し、主力のまいたけを中心に据えた成長戦略を進めている

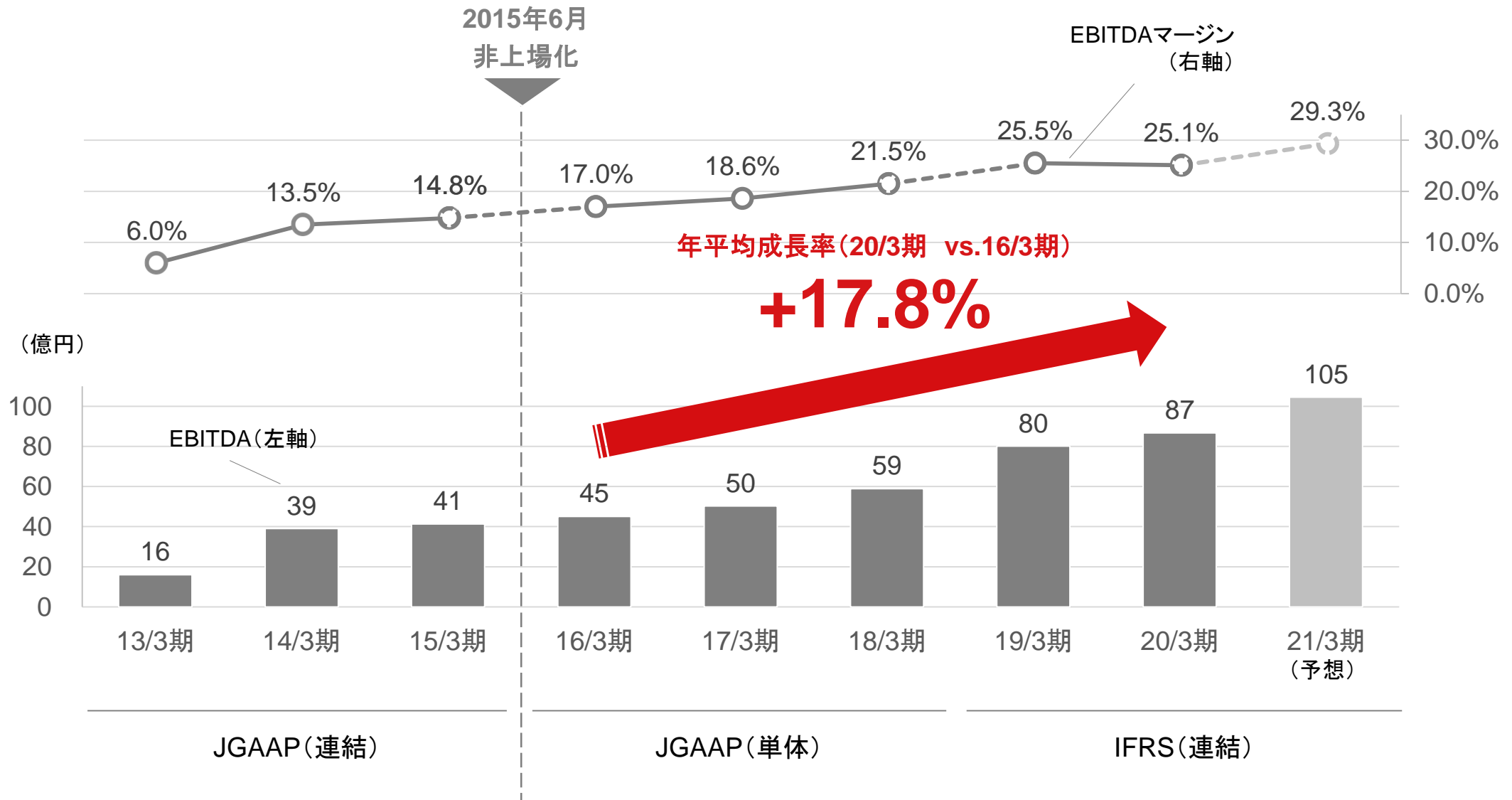


注): 上記業績について、2013/3期から2015/3期の値は1983年7月に設立された株式会社雪国まいたけ(①)を1991年4月1日付で吸収合併した株式会社(②)のJGAAPに基づく連結財務数値。  
 2016/3期、2017/3期の値は②を2015年10月1日付で吸収合併した株式会社(③)のJGAAPに基づく単体財務数値。2018/3期の値は2018年1月1日付で③を吸収合併した旧雪国まいたけ(④)の単体財務数値を記載。  
 2020年4月1日に株式会社雪国まいたけホールディングスが④を吸収合併し、同日に「株式会社雪国まいたけ」に商号変更して現在の当社になっている。  
 なお、当社は2020/3期より会計基準をIFRSに変更しており、2020/3期に加え、2019/3期についても2018年4月1日を移行日としたIFRSに基づく連結財務数値を記載



# EBITDA及びEBITDAマージン推移

- 高いキャッシュフロー創出力と収益性により、サステイナブルな成長を実現



注): 上記業績について、2013/3期から2015/3期の値は1983年7月に設立された株式会社雪国まいたけ(①)を1991年4月1日付で吸収合併した株式会社(②)のJGAAPに基づく連結財務数値。2016/3期、2017/3期の値は②を2015年10月1日付で吸収合併した株式会社(③)のJGAAPに基づく単体財務数値。2018/3期の値は2018年1月1日付で③を吸収合併した旧雪国まいたけ(④)の単体財務数値を記載。2020年4月1日に株式会社雪国まいたけホールディングスが④を吸収合併し、同日に「株式会社雪国まいたけ」に商号変更して現在の当社になっている。なお、当社は2020/3期より会計基準をIFRSに変更しており、2020/3期に加え、2019/3期についても2018年4月1日を移行日としたIFRSに基づく連結財務数値を記載



---

3

## 2021年3月期 第2四半期 決算概要

---



## 売上収益

前年同期比  
**+6.2億円**  
(+4.3%)

- コロナウイルス拡大による外出自粛をきっかけとした家庭での調理機会の増加や健康意識の高まりを背景とした機能性食材の需要が拡大したことに加え、初夏の天候不順により野菜相場が高騰したことによるきのこのへの需要の高まりもあり、堅調に推移
- 2020年2月に終売したカット野菜、納豆の減収があったものの、2019年10月に子会社化した三蔵農林の売上増加も寄与

## 調整後 営業利益

前年同期比  
**+6.9億円**  
(+24.1%)

- まいたけ、エリンギ、ぶなしめじの主力事業での増収やユーティリティ費の減少、品質向上、生産効率向上等により材料費・人件費等が低下
- 販売費及び一般管理費は、売上増加等で運賃、販売手数料等が増加するも、各種コストコントロールによる低減により、全体では微増



## 2021年3月期 第2四半期 決算ハイライト (連結損益計算書)

(百万円)	2020年3月期 第2四半期	対収益 合計 比率	対売上 収益 比率	2021年3月期 第2四半期	対収益 合計 比率	対売上 収益 比率	増減額	増減率
収益合計 <sup>*1)</sup>	21,360	—	—	<b>22,655</b>	—	—	+1,295	+6.1%
売上収益	14,377	—	—	<b>14,997</b>	—	—	+620	+4.3%
公正価値変動による利得	6,982	—	—	<b>7,657</b>	—	—	+675	+9.7%
営業利益	2,753	12.9%	19.2%	<b>3,280</b>	14.5%	21.9%	+527	+19.2%
税引前四半期利益	2,462	11.5%	17.1%	<b>3,019</b>	13.3%	20.1%	+557	+22.6%
四半期利益	1,598	7.5%	11.1%	<b>1,959</b>	8.7%	13.1%	+360	+22.6%
<b>【参考数値】</b>								
調整後EBITDA <sup>*2)</sup>	3,703	17.3%	25.8%	<b>4,509</b>	19.9%	30.1%	+805	+21.8%
調整後営業利益	2,856	13.4%	19.9%	<b>3,544</b>	15.6%	23.6%	+688	+24.1%
調整後四半期利益	1,720	8.1%	12.0%	<b>2,221</b>	9.8%	14.8%	+500	+29.1%

\*1): 収益合計: 売上収益 + 公正価値変動による利得

\*2): 調整後営業利益、調整後 EBITDA 及び調整後当期(四半期)利益を以下の算式により算出

・調整後営業利益 = 営業利益 + マネジメントフィー<sup>\*1)</sup> + 上場関連費用<sup>\*2)</sup>、調整後 EBITDA = 調整後営業利益 + 減価償却費及び償却費

・調整後当期(四半期)利益 = 当期(四半期)利益 + マネジメントフィー<sup>\*1)</sup> + 上場関連費用<sup>\*2)</sup> + リファイナンス関連損益<sup>\*3)</sup> + 調整項目の税金調整額

\*1): 当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び ㈱ 神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬

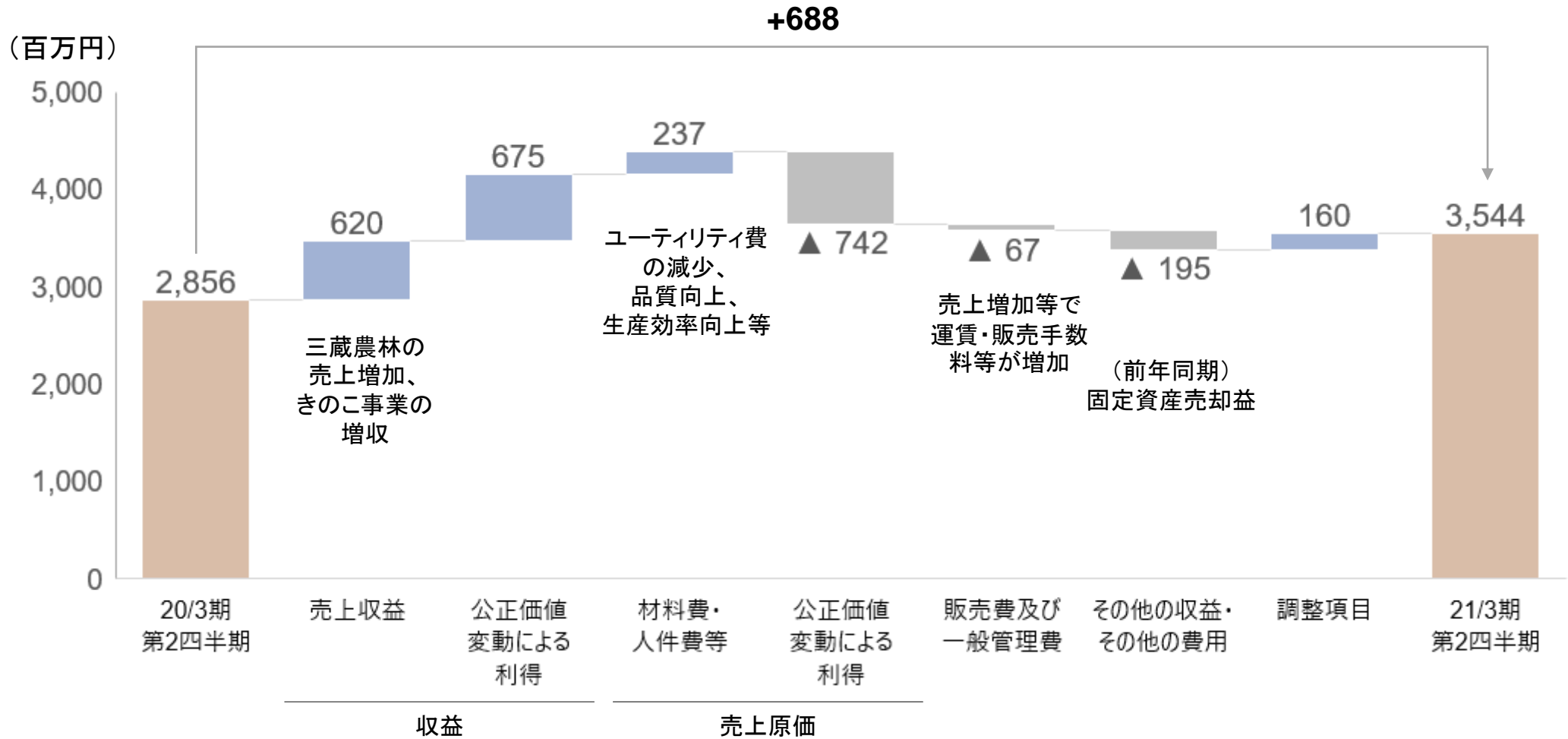
\*2): 上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用

\*3): 当社非公開化後に実施したリファイナンスに関連して一時的に発生したアドバイザー費用等であり、また、同リファイナンスに伴う契約金利の低下によって発生した一時的な利得と それに関連して発生する残存契約期間における支払利息の増加額を相殺



# 調整後営業利益の増減分析

- 調整後営業利益ベースで、前年同期比688百万円の増収



調整後営業利益 = 営業利益 + マネジメントフィー<sup>※1</sup> + 上場関連費用<sup>※2</sup>

※1: 当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び榊神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬

※2: 上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用





## セグメント別売上収益

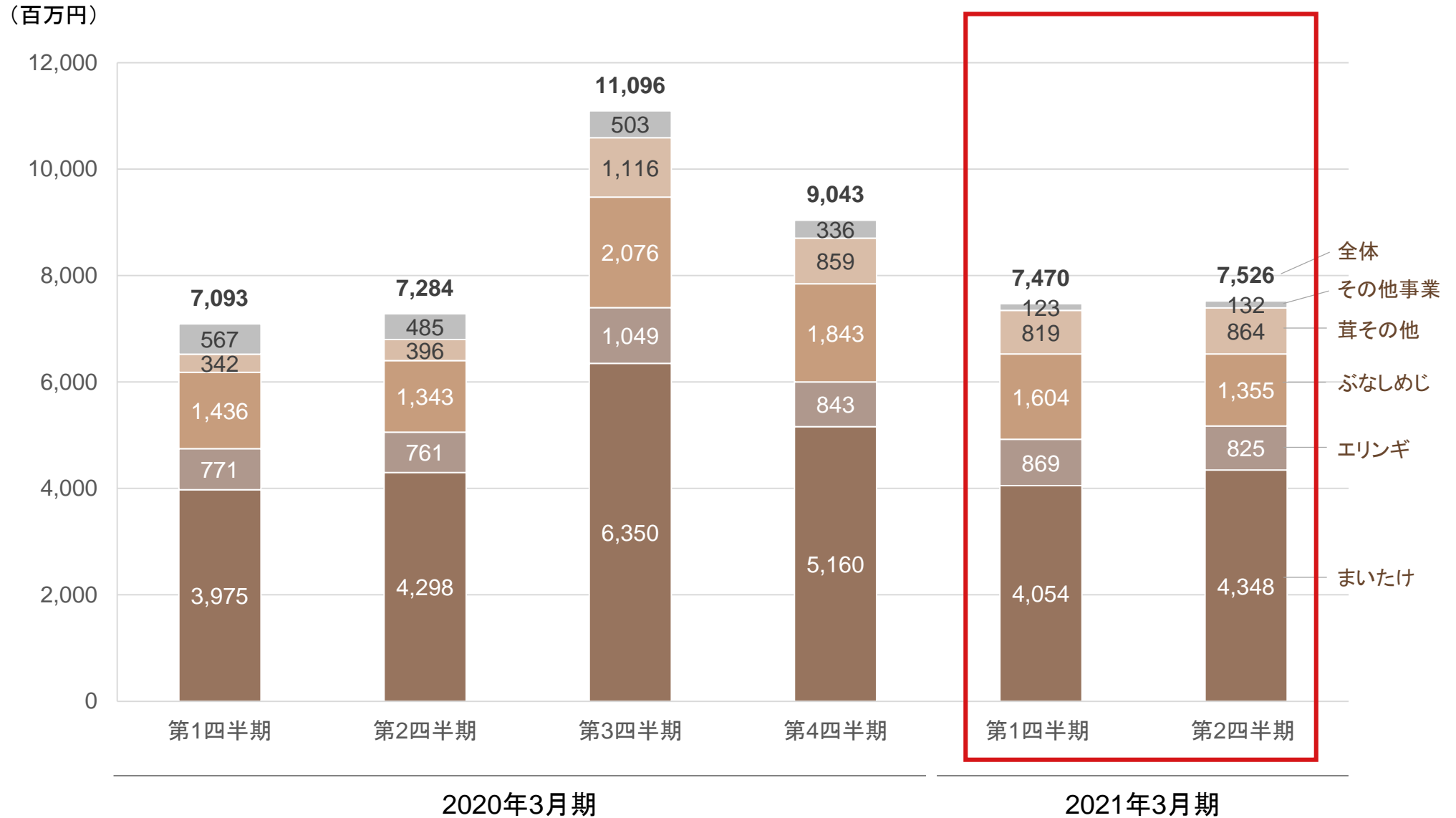
- ・ 茸その他事業にマッシュルーム事業が加わり、増収となった一方、その他事業では不採算事業からの撤退により減収となったものの、全体としては増収

(百万円)	2020年3月期		2021年3月期		増減額	増減率
	第2四半期	構成比	第2四半期	構成比		
売上収益合計	14,377	100.0%	<b>14,997</b>	100.0%	+620	+4.3%
茸事業	13,325	92.7%	<b>14,741</b>	98.3%	+1,416	+10.6%
まいたけ	8,273	57.5%	<b>8,402</b>	56.0%	+129	+1.6%
エリンギ	1,533	10.7%	<b>1,694</b>	11.3%	+161	+10.5%
ぶなしめじ	2,780	19.3%	<b>2,960</b>	19.7%	+180	+6.5%
茸その他	738	5.1%	<b>1,683</b>	11.2%	+945	+128.0%
その他事業	1,052	7.3%	<b>255</b>	1.7%	▲796	▲75.7%



# セグメント別売上収益推移

・ 第1四半期、第2四半期ともに堅調に推移





・ 販売単価、生産量ともにほぼ計画通り推移

販売単価比較 <sup>*1)</sup>		
(%)	前年 同期比	計画比 <sup>*3)</sup>
まいたけ	96.1%	99.2%
エリンギ	108.0%	101.2%
ぶなしめじ	113.4%	100.7%
茸その他 <sup>*2)</sup>	—	104.3%

生産量比較		
(%)	前年 同期比	計画比 <sup>*3)</sup>
まいたけ	94.0%	99.8%
エリンギ	95.4%	100.3%
ぶなしめじ	92.1%	100.0%
茸その他 <sup>*2)</sup>	—	97.2%

\*1): 加工品を除く販売単価にて比較

\*2): 本しめじ、はたけしめじ、マッシュルームの合算値にて比較

\*3): 2020年9月17日に公表した「東京証券取引所市場第一部への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」における当社グループの連結業績予想との比較



## 2021年3月期 第2四半期 決算ハイライト (連結財政状態計算書)

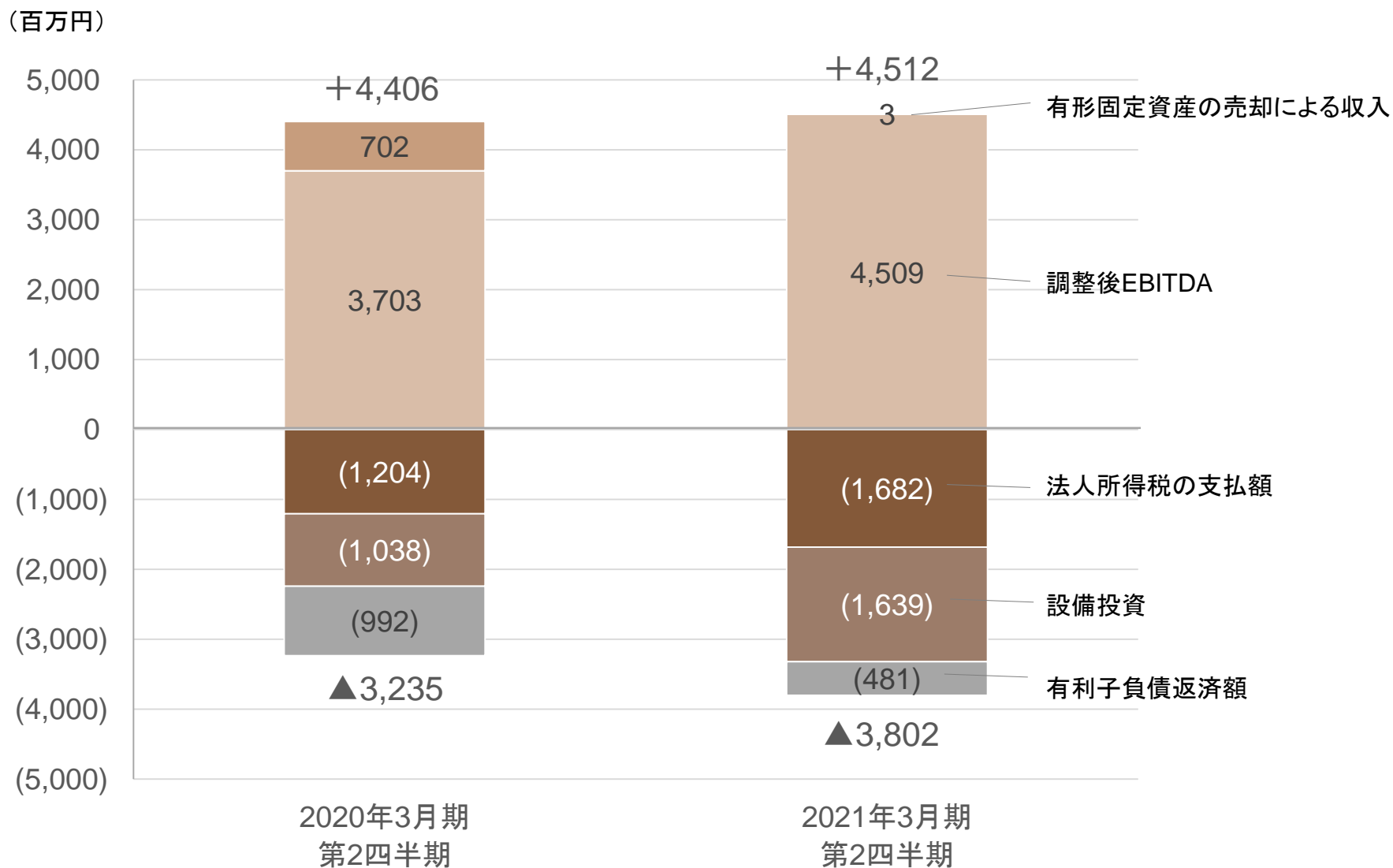
- ・ 公正価値変動による利得により生物資産が大幅に増加しているものの、通期では概ね前年並みとなる見込み

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期 第2四半期	増減額	増減率	主な増減理由
流動資産	11,045	<b>11,492</b>	+446	+4.0%	
棚卸資産	1,292	<b>1,476</b>	+184	+14.2%	有形固定資産増加
生物資産	3,019	<b>3,970</b>	+950	+31.5%	
非流動資産	24,153	<b>25,365</b>	+1,211	+5.0%	有形固定資産増加
資産合計	35,199	<b>36,857</b>	+1,658	+4.7%	
流動負債	7,280	<b>7,424</b>	+143	+2.0%	設備支払手形、未払法人 所得税、賦課金に係る調整
1年内返済予定の長期借入金	942	<b>1,037</b>	+95	+10.1%	
非流動負債	23,017	<b>22,558</b>	▲459	▲2.0%	
借入金	22,438	<b>22,048</b>	▲389	▲1.7%	約定弁済
負債合計	30,297	<b>29,982</b>	▲315	▲1.0%	
資本合計	4,901	<b>6,874</b>	+1,973	+40.3%	
負債及び資本合計	35,199	<b>36,857</b>	+1,658	+4.7%	



# キャッシュアロケーション実績

- 生産性の向上に向けたファクトリーオートメーション化の推進及び老朽化した生産設備の入れ替えに取り組み、設備投資が拡大





# 主要財務指標の状況

- ・ 潤沢なキャッシュフローを背景として、財務体質は継続的に強化

## のれんに関する財務指標推移

### のれん/純資産倍率 <sup>\*1)</sup>



## 純有利子負債に関する財務指標推移

### Net D/Eレシオ <sup>\*1)</sup>



- ・ 減損の兆候の有無に関わらず、**年に1度減損テストを実施**
- ・ 四半期毎に減損の兆候の有無を確認し、**減損の兆候がある場合は適宜減損テストを実施**

### Net D/EBITDA倍率 <sup>\*2)</sup>



\*1): IFRSに基づく連結財務数値

\*2): 一過性費用を除いた調整後EBITDAの実績値を使用。調整後EBITDA=調整後営業利益+減価償却費

\*3): 直近12ヵ月(2019年10月~2020年9月)の累計調整後EBITDAにて試算





## 業績への 影響

- 全体的には新型コロナウイルスによるネガティブな影響はなく、コロナ禍をきっかけとした健康志向の高まりや巣ごもり需要は追い風
- まいたけは販売量が増加、ぶなしめじとエリンギは販売単価が一時的に上昇

## 感染拡大防止に 対する取り組み

### 全社での 取り組み

- 検温・マスク着用徹底
- 手洗い消毒の励行・定期的な換気
- 密閉空間での社内会議や打ち合わせの原則禁止
- 昼食の時間差取得や着席と離席時の時間の記録、会話自粛
- 1mの間隔を空け、対面での着座を原則禁止
- 接触確認アプリの利用推奨

### 営業所等 での 取り組み

- 感染拡大地域においては、テレワークと交代制での出勤により、オフィスへの出勤率を極力抑えながら対応



---

4

## 2021年3月期 業績予想

---



## 2021年3月期 業績予想

- ・2021年3月期(2020年4月1日から2021年3月31日)における当社グループの連結業績予想は、2020年3月期に対し、増収・増益の見通し

(百万円)	2020年 3月期	対収益 合計 比率	対売上 収益 比率	2021年 3月期	対収益 合計 比率	対売上 収益 比率	増減額	増減率
収益合計	50,759	—	—	52,678	—	—	+1,918	+3.8%
内売上収益	34,517	—	—	35,632	—	—	+1,114	+3.2%
営業利益	6,691	13.2%	19.4%	8,324	15.8%	23.4%	+1,633	+24.4%
税引前利益	6,646	13.1%	19.3%	7,783	14.8%	21.8%	+1,137	+17.1%
当期利益	4,344	8.6%	12.6%	5,099	9.7%	14.3%	+754	+17.4%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	4,346	8.6%	12.6%	5,099	9.7%	14.3%	+752	+17.3%
<b>【参考数値】</b>								
調整後EBITDA	8,672	17.1%	25.1%	10,453	19.8%	29.3%	+1,781	+20.5%
調整後営業利益	6,899	13.6%	20.0%	8,618	16.4%	24.2%	+1,718	+24.9%
調整後当期利益	4,282	8.4%	12.4%	5,466	10.4%	15.3%	+1,183	+27.6%

注)：調整後営業利益、調整後 EBITDA 及び調整後当期利益を以下の算式により算出

調整後営業利益＝営業利益＋マネジメントフィー<sup>※1</sup>＋上場関連費用<sup>※2</sup>

調整後 EBITDA＝調整後営業利益＋減価償却費及び償却費

調整後当期利益＝当期利益＋マネジメントフィー<sup>※1</sup>＋上場関連費用<sup>※2</sup>＋リファイナンス関連損益<sup>※3</sup>＋調整項目の税金調整額

※1：当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び(株)神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬

※2：上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用

※3：当社非公開化後に実施したリファイナンスに関連して一時的に発生したアドバイザー費用等であり、また、同リファイナンスに伴う契約金利の低下によって発生した一時的な利得と

それに連動して発生する残存契約期間における支払利息の増加額を相殺



## 今後に向けた当社の財務方針

- ・潤沢なキャッシュフローを背景に、成長投資の強化、財務体質の安定強化、株主還元策をバランス良く行う

### 成長投資の強化

- ・ 生産供給能力の継続的な強化
- ・ 中長期的な海外進出や工場建設の検討
- ・ M&Aも活用した事業ポートフォリオの更なる強化も随時検討



### 財務方針

### 財務体質の安定強化

- ・ 有利子負債削減を通じたバランスシートの強化継続
- ・ Net D/Eレシオ、Net D/EBITDA倍率など財務指標の改善

### 株主還元策の実施

- ・ 毎期のフリー・キャッシュフローに応じた弾力的な利益還元策を行う方針
- ・ 連結配当性向: 30%程度を目標
- ・ 株主優待制度を実施(年1回)



# 株主還元

- ・ 連結配当性向 30%程度を目標とした配当、及び年1回の株主優待にて株主還元を行う方針

## 配当

	年間配当(予想)	42円00銭
1株当たり配当金	<b>中間配当</b>	<b>14円00銭</b>
	期末配当(予想)	28円00銭

## 株主優待

### 対象となる株主様

毎年3月末日の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有かつ6ヶ月以上継続保有(割当基準日である3月末日とその前年の9月末日に、同じ株主番号にて、連続して株主名簿に記載された状態)

### 優待内容

3,000円相当の当社商品



※写真はあくまで一例です

### 贈呈時期及び方法

毎年6~7月頃(予定)に、直前の3月末日現在の対象の株主様に発送



---

5

## 中期経営計画 (2020年3月期から2023年3月期)

---



テーマ・基本戦略

プレミアムきのこ総合  
メーカーとしての  
基盤確立

まいたけでの  
圧倒的No.1の  
達成と維持

生産・包装の  
技術革新の  
追及

需要拡大につながる  
機能性、きのこ  
高品質化研究

財務体質の  
強化

当社独自モデルの  
海外展開への  
準備

定量目標

営業利益：年平均成長率7%前後

注1):IFRS に基づく財務報告値ベース

注2):年平均成長率の対象期間は 2020 年3月期から2023 年3月期の3年間

注3):営業利益は一過性費用を除いた調整後営業利益(営業利益+その他調整費用)を使用



健康需要の拡大を捉えた、まいたけ事業を中心とするトップラインの成長



アグリテックの追求による生産性の向上



ECを中心とした健康食品事業の拡大



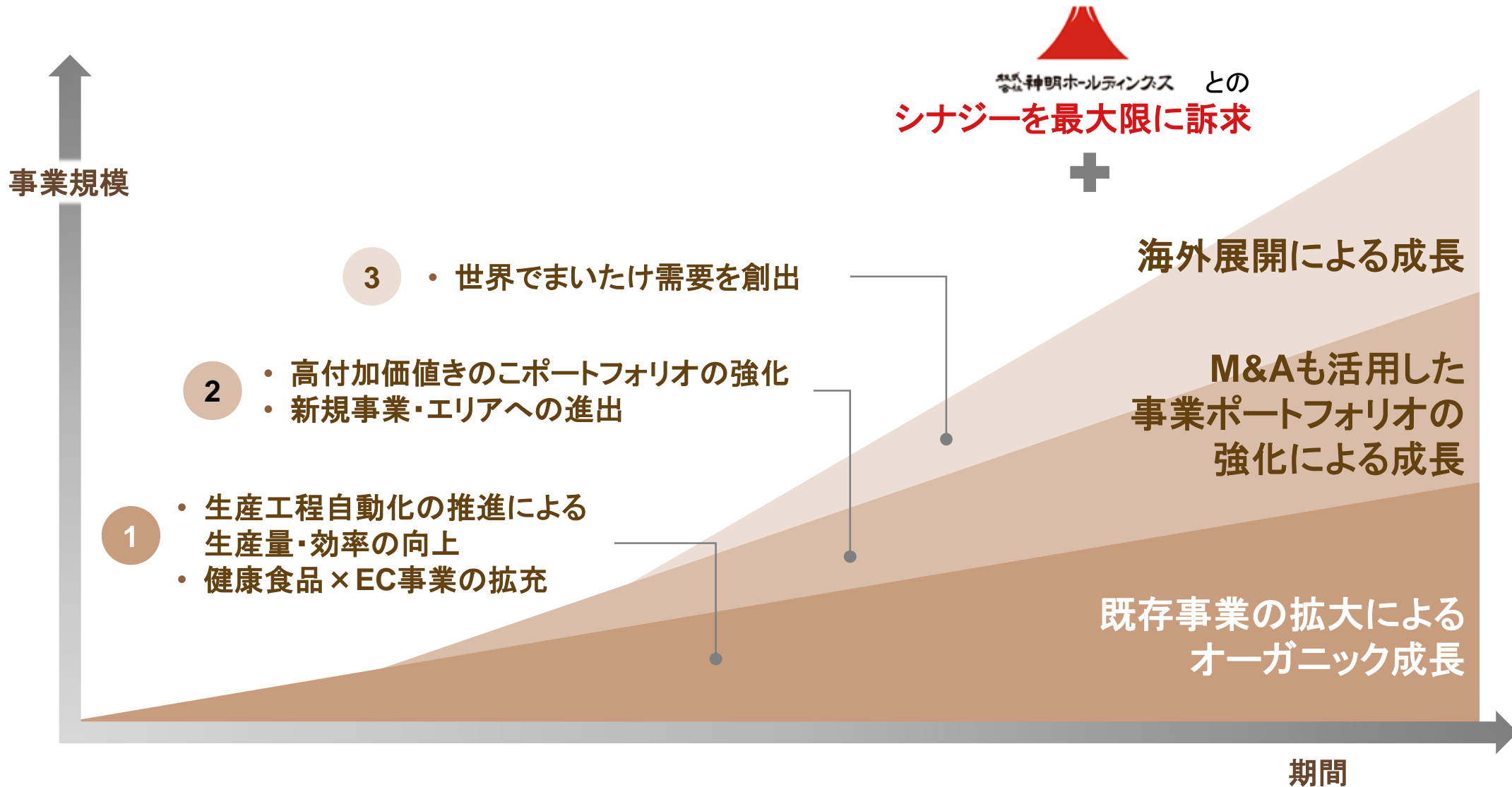
M&Aも活用した事業ポートフォリオの強化





## 中長期的な成長イメージ

- ・ 中長期的には、神明ホールディングスとのシナジーを活かしながら、技術革新によるコスト効率化、生産キャパシティの増強や ECの販路拡大のオーガニック成長に加え、M&Aを中心とした事業ポートフォリオの強化及び海外展開による成長に取り組むことで、更なる成長を企図





---

6

## 參考資料

---



# 連結損益計算書

(百万円)	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	増減額	増減率
売上収益	14,377	<b>14,997</b>	+620	+4.3%
公正価値変動による利得	6,982	<b>7,657</b>	+675	+9.7%
収益合計	21,360	<b>22,655</b>	+1,295	+6.1%
材料費、人件費等	8,663	<b>8,425</b>	▲ 237	▲ 2.7%
公正価値の変動による利得	6,104	<b>6,846</b>	+742	+12.2%
売上原価	14,767	<b>15,272</b>	+505	+3.4%
売上総利益	6,592	<b>7,383</b>	+790	+12.0%
販売費及び一般管理費	3,890	<b>3,957</b>	+67	+1.7%
その他の収益	220	<b>27</b>	▲ 192	▲ 87.6%
その他の費用	169	<b>171</b>	+2	+1.7%
営業利益	2,753	<b>3,280</b>	+527	+19.2%
税引前四半期利益	2,462	<b>3,019</b>	+557	+22.6%
四半期利益	1,598	<b>1,959</b>	+360	+22.6%
【参考数値】				
調整後EBITDA	3,703	<b>4,509</b>	+805	+21.8%
調整後営業利益	2,856	<b>3,544</b>	+688	+24.1%
調整後四半期利益	1,720	<b>2,221</b>	+500	+29.1%



## 連結財政状態計算書

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期 第2四半期	増減額	増減率
流動資産	11,045	11,492	+446	+4.0%
現金及び預金	4,461	3,508	▲952	▲21.4%
営業債権及びその他の債権	2,141	2,439	+298	+13.9%
棚卸資産	1,292	1,476	+184	+14.2%
生物資産	3,019	3,970	+950	+31.5%
非流動資産	24,153	25,365	+1,211	+5.0%
有形固定資産	16,710	18,066	+1,356	+8.1%
のれん及び無形資産	5,320	5,311	▲8	▲0.2%
資産合計	35,199	36,857	+1,658	+4.7%
流動負債	7,280	7,424	+143	+2.0%
営業債務及びその他の債務	2,390	3,205	+814	+34.1%
未払法人所得税	1,539	1,064	▲475	▲30.9%
1年内返済予定の長期借入金	942	1,037	+95	+10.1%
非流動負債	23,017	22,558	▲459	▲2.0%
借入金	22,438	22,048	▲389	▲1.7%
リース負債	483	416	▲67	▲13.9%
負債合計	30,297	29,982	▲315	▲1.0%
資本合計	4,901	6,874	+1,973	+40.3%
親会社の所有者に帰属する持分合計	4,899	6,880	+1,980	+40.4%
負債及び資本合計	35,199	36,857	+1,658	+4.7%



## 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2020年3月期 第2四半期累計	2021年3月期 第2四半期累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲1,320	1,292	+2,612
税引前利益	2,462	3,019	+557
営業債権及びその他の債権の増減額	407	▲298	▲705
棚卸資産の増減額	▲613	▲184	+429
営業債務及びその他の債務の増減額	▲1,537	▲17	+1,519
従業員給付に係る負債の増減額	▲695	179	+875
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲389	▲1,652	▲1,262
有形固定資産の取得による支出	▲1,038	▲1,639	▲600
有形固定資産の売却による収入	702	3	▲699
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,096	▲592	+504
長期借入金の返済による支出	▲992	▲481	+511
現金及び現金同等物の増減額	▲2,807	▲952	+1,854
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,810	3,508	▲301



・ ましたけの持つ豊富な栄養素を活用して独自で健康食品を開発・展開し、ECを通じて販売

## 雪国ましたけ ONLINE

株式会社雪国ましたけが運営する公式オンラインショップです。えいふり由来の健康食品「えいふりのふしぎ」シリーズを展開しています。

[サイトマップ](#)
[お問い合わせ](#)
[コーポレートサイト](#)

**雪国ましたけ ONLINE**  
 ー雪国ましたけ公式通販サイトー

ご注文・商品に関するお問い合わせ [マイページ](#)  
**0120-990-533** [カートを見る](#)  
 受付時間 9:00-17:00(土日・祝除く)

[HOME](#) | [ましたけのふしぎシリーズ](#) | [商品一覧](#) | [定期コースの案内](#) | [はじめての方](#) | [よくある質問](#)

MXフラクション含有!

雪国ましたけを乾燥・粉砕し、凝縮して粒にした高濃度ましたけサプリ

### 雪国ましたけの粒

- ・ましたけ由来MXフラクション含有
- ・ましたけ由来の食物繊維
- ・持ち運びしやすい個包装

無理なく続けていただきたいから  
**3** 定期購入コースの嬉しい特典

- 特典1** 特別割引価格で購入できる!
- 特典2** 回数縛りなく、解約・休止可能!
- 特典3** 数やお届け日などの変更も調整可能!

[定期コース詳細を見る](#)

**会員の方**

- ▶ 会員情報の確認・変更
- ▶ お届け内容の確認・変更
- ▶ 定期コース内容の確認・変更

**はじめての方**

- ▶ はじめての方

**お知らせ**

2020/08/03	2020年夏季休業のご案内
2020/05/01	ゴールデンウィーク休業のお知らせ
2020/03/27	「まいふり」販売終了のお知らせ

[お知らせ一覧はこちら](#)

**雪国ましたけの健康商品**

## 取扱商品



雪国ましたけの粒



MDフラクション®プラス



ましたけア



雪国ましたけが作った  
家族で飲める青汁プラス



雪国ましたけが作った  
家族で飲める青汁



## サステナビリティに対する取り組み

- 環境保全に向けて、資源の最大限の活用やエコフレンドリーなエネルギーへの切替え等の取り組みを強化中

### ムダが少ない



#### 廃棄ロスが極めて少ない

- 廃棄となったきのこも有効活用

### 資源のリユース



#### 培地の再利用を推進中

- 栽培に使用した後のおが粉をバイオマスボイラーの燃料などに全て再利用

### 気候変動の緩和



#### エネルギー変換効率の高い新電力やLNGの導入

- 地熱等の自然エネルギーも活用
- 使用済培地も燃料として活用





## 森林整備への取り組み

- 健康な森づくりのための除伐や広葉樹の植栽等を行うことで、人と森が共生できる森林公園を整備する  
**「雪国まいたけの森づくり活動」をスタート**

荒廃した森林を間伐し、木々が育ちやすい環境を整え、人が訪れる空間をつくる



下刈り  
伐採  
道整備



伐採期を迎える杉を伐採し、広葉樹を植栽し、地力の高く景観のよい混交林をつくる



下刈り  
伐採  
植栽







## 社会貢献活動

- 環境保全活動への支援や地域社会の活性化・発展への支援を通じて、社会の持続可能性を高める社会貢献活動にも取り組み中

### Team Ecoへの参画

UX新潟テレビ21が主催する環境保全活動の趣旨に賛同し、2019年から協賛メンバーとして参加



### 地域イベントへの協賛

地域で開催されるスポーツイベントへの協賛、お祭りなどへ参加を通じて、地域の活性化に貢献



### 南魚沼 - 沖縄金武交流会への協賛

株式会社きのこセンター金武が当社グループに加わった2019年より南魚沼・金武町小学生交流会へ特別協賛

新潟の子供たちは金武町の工場を、沖縄の子供たちは南魚沼市の工場をそれぞれ見学

### 地元小学生の見学受入れ

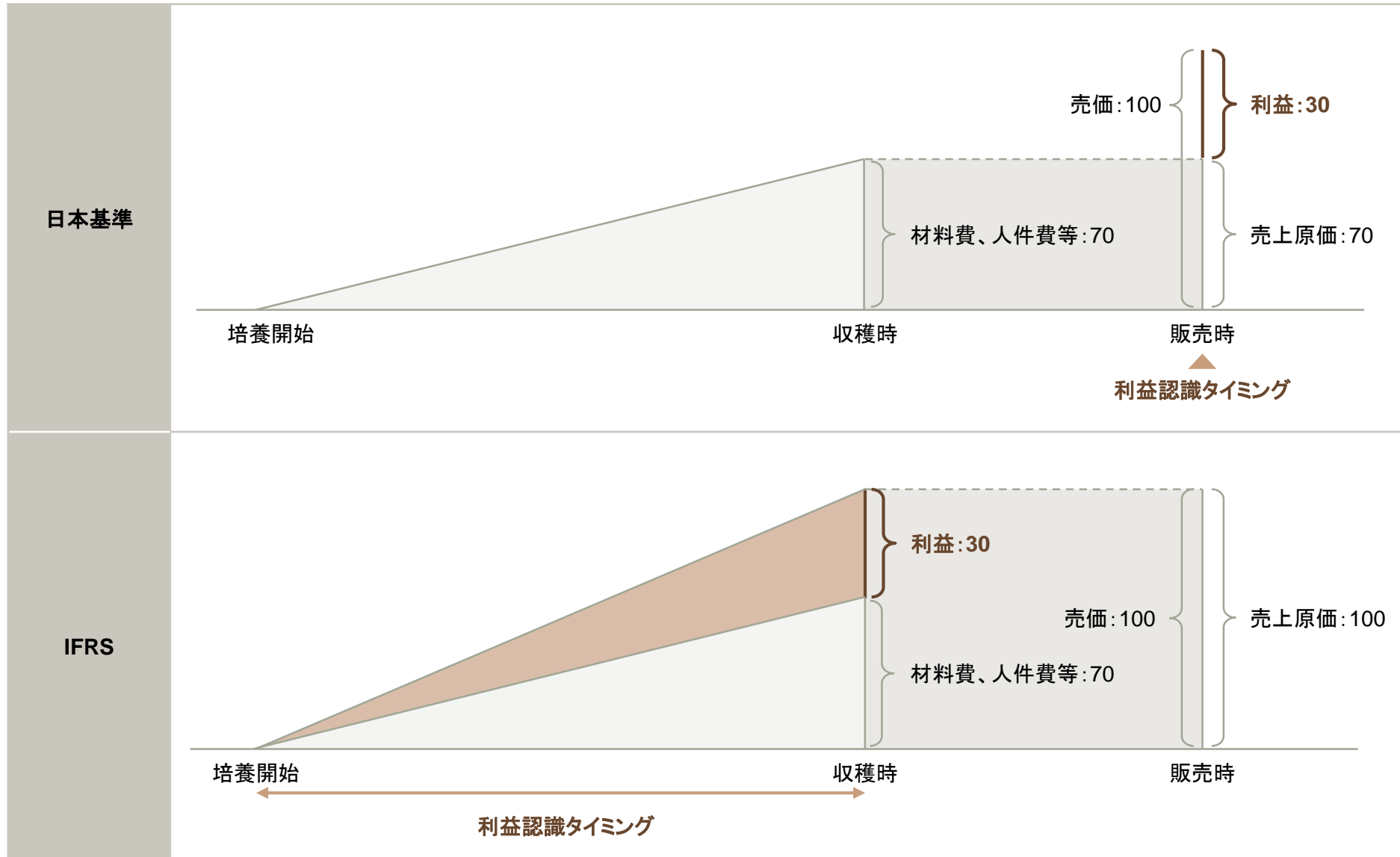
地元小学生の校外学習社会科見学の一環として、きのこ生産・包装センターの見学受入れを実施





# IAS第41号「農業」の会計処理に関する概説

- 日本基準では販売時に利益を認識するのに対し、IFRSでは培養から収穫にかけて前倒しで利益を認識





## 本資料に係る免責事項

---

本資料は、資料作成時点において当社が入手している情報に基づき策定しており、当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

また、独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていない、過去の財務諸表又は計算書類に基づく財務情報及び財務諸表又は計算書類に基づかない管理数値が含まれていることをご了承ください。



株式会社雪国まいたけ

証券コード: 1375